

JtCA

一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会

Frontier

ジャパンマニュアルアワード2025結果報告



第20号
2026年



一般財団法人
テクニカルコミュニケーター協会

Frontier

2026年 第20号

CONTENTS

特集

ジャパンマニュアルアワード2025結果報告 … P.02

はじめに …… P.02

2025年のジャパンマニュアルアワード概要 … P.05

応募状況 …… P.06

1次審査 …… P.07

2次審査 …… P.08

学生審査 …… P.08

3次審査 …… P.08

審査担当者 …… P.08

表彰式およびマニュアル オブ ザ イヤー

選考会(最終審査) …… P.10

審査結果 …… P.12

入賞マニュアル解説 …… P.14

選考委員コメント …… P.27

マニュアル オブ ザ イヤー 2025 受賞者の歩み

音と音楽の未来を支えるヤマハ …… P.33

ジャパンマニュアルアワード2025結果報告

2025年8月29日にTC協会CDシンポジウムにてジャパンマニュアルアワードの受賞マニュアルが発表され、10月8日には各賞の表彰式およびマニュアル オブ ザ イヤーの選考・表彰が行われました。今号の特集では、2025年のジャパンマニュアルアワードの概要をまとめ、経過を振り返るとともに、入賞した作品に対する2次審査委員の解説と選考委員のコメントを紹介します。

はじめに

ジャパンマニュアルアワードは、2025年現在、消費者庁および国民生活センターの後援を得ている、日本で唯一の使用情報のコンテストです。使用情報の供給者であれば誰でも応募でき、1次審査、2次審査、3次審査および最終審査を経て優秀な作品には、「マニュアル オブ ザ イヤー」、「優秀賞」、「特別賞」などが授与されます。また、全応募作品に対して、IEC/IEEE82079-1 Edition 2.0を基に作成した独自の評価表による採点結果と、1次審査委員によるコメントが送付されます。このコメントをマニュアル改善に活用する目的で、応募する会社も見受けられます。1次審査では、JMAの各実行委員により、個々の応募作品が上記評価表を使って審査されます。その結果を受け、2次審査では一堂に会したJMA全実行委員によるディスカッション形式で、全作品が相対的に評価され、同時に受賞候補作が選定されます。3次審査および最終審査は受賞候補作に対して学識経験者や消費者代表からなる選考委員によって行われます。また一般部門においては、3大学の研究室の学生に、わかりやすい作品を選定いただく「学生審査」も実施しています。

ジャパンマニュアルアワード実行委員(1次/2次審査委員)になるためには、以下の条件でご登録いただく必要があります。

A. 3年以上の実務経験者（使用情報の企画・設計、デザイン、ライティングのいずれかを経験）で、使用情報の評価に関心のある人

B. 産業機器の製品/サービスのマニュアル制作実務経験者

Aの方はジャパンマニュアルアワード実行委員会へ、A+Bの方はジャパンマニュアルアワード産業機器分科会へどうぞご登録ください。実行委員に登録されれば8時間の審査委員講習を受けることになり、これを修了した人が1次審査委員の資格を有することになります。

ジャパンマニュアルアワード実行委員会では毎年、結果報告書（本書）を発行しています。日ごろマニュアル制作に携わっている方々がこの報告書から何かを感じ取り、今後のマニュアル品質や制作技術の向上に役立てていただけるよう取り組んでいます。

■ ジャパンマニュアルアワード2025によせて

テクニカルコミュニケーター協会会長 綿井 雅康

本年のマニュアルアワードも、皆様のご理解とご協力により、多くの成果をあげて実施することができました。本アワードは、年始めの募集案内から、10月のマニュアル オブ ザ イヤー決定まで、長い時間をかけて実施されています。ご応募いただいた会員企業の方々、審査を担当された委員の方々、さらには本アワード実行委員の方々のご尽力によって、本アワードが成立しています。毎年のことですが、関係する全ての皆さまに、心から感謝を申し上げます。

本アワードの最終目標は、応募マニュアルのなかからマニュアル オブ ザ イヤーを選出することです。マニュアル オブ ザ イヤーに選出されたマニュアルは、最も優れているというだけでなく、これからのマニュアルが目指すべき新たな方向性を示したり、他のマニュアルも取り入れるべき創意工夫が散りばめられています。京都で開催されるTCシンポジウムでは、今年度入賞したマニュアルが展示されており、詳細にご覧いただくことができます。

さらに、本アワードを実施する意義は、マニュアル オブ ザ イヤーを選出するまでの審査プロセスにあります。応募にあたって担当者が書類を準備されること、1次および2次審査を担当されて数多くのマニュアルをチェックされること、さらには、マニュアル オブ ザ イヤー候補作品のプレゼンテーションをご覧になること、マニュアルアワードに関わる様々な活動が、参加された方々の経験・視野・資質を豊富にするものと信じています。さらに、こうした経験がマニュアル制作技術の総体的な向上に貢献しているはずです。

本アワードを通して、これからのTC技術がどのように発展していくのか、TCの世界がどのように拡

張していくべきなのかについても、新たな知見や視点を獲得する機会になっていると考えます。来年度のマニュアルアワードにも、より多くのマニュアルにご応募いただき、また、より多くの会員の皆様が審査員や実行委員として参画いただくようお願いするばかりです。今後とも皆様のご理解とご協力を是非ともお願い申し上げます。

■ 2025年のジャパンマニュアルアワード活動を振り返って

実行委員長 工藤 亜望

2025年は、紙のマニュアルに留まらない「HTML形式をはじめとする紙以外の形式」の応募が昨年と比較して約3割増加し、マニュアルのあり方の大きな変化を実感する一年となりました。

■ 2025年の運営活動におけるトピックスは以下の内容となります。

- 実行委員会、審査員講習会、2次審査会はリアル開催を前提で実施。
- CDシンポジウムにおいて審査員参加でのトークセッション、TCシンポジウムにおいて受賞会社様参加でのトークセッションを実施。
- マニュアルオブザイヤー選考会、表彰式をTCシンポジウム会場の京都リサーチパークでリアル開催。
- マニュアルオブザイヤー選考委員8名(内3名は女性)。
- 2025年受賞作品の説明ガイドツアー実施。
- TCシンポジウム会場における受賞作品展示は1号館4階ホワイエのスペースを活用。
- 表彰式&MOY選考会は4号館地下1階バスホールにて実施。
- HTML形式をはじめとする紙以外の形式の応募が昨年比で約3割増加。

■運営スケジュールは以下の通りです。

- 1月：2025年の実行委員会スタート
- 2月～4月：3回に分けて審査員講習会を実施
- 5月～6月：募集締め切り 1次審査（担当審査員による個別審査）
- 6月～7月：2次審査（相対審査）2日間 3大学での学生審査も併行して実施
- 8月：3次審査（有識者審査）受賞作品確定、マニュアルオブザイヤー候補作品選定
- 8月：受賞作品発表（Webでの告知）、CDシンポジウムの中でトークセッション「ジャパンマニュアルアワード2025 ～審査の中身、みせちゃいます！～」実施
- 10月：マニュアルオブザイヤー選考会・受賞作品表彰式を京都リサーチパークで開催、マニュアルオブザイヤー作品発表。併せてTCシンポジウムの中でミニセッション「マニュアルの最前線！～優秀賞受賞会社が語る制作の秘訣～」や「デジタルネイティブ世代に響くマニュアルとは～学生賞受賞会社が語る～」の2つのミニセッションを実施
- 11月：年間活動総括

■JMA実行委員会活動では、以下の4点をメリットとしております。

- 審査方法を覚えることで、良いマニュアルを作るためのポイントを学べます。
- 応募作品に触れることで、制作トレンドをつかめます。
- 審査員講習会を通じて、使用情報に関する国際規格の基本を学べます。
- 審査時に応募用紙を読み込むことで、マニュアル規格の重要性が学べます。

これら4点をメリットと感じていただける方は、是非とも「アワード2026実行委員会」に実行委員

登録をお願いします。皆様ともに活動できることを楽しみにしております。

2025年は、新たなイベントとして企画した受賞会社様による2つのミニセッションでは、実務に即した貴重なお話を伺うことができました。聴講者の皆様からも大変ご好評をいただき、今後の活動への大きな手応えを感じる盛況ぶりとなりました。2026年も継続して企画を検討してまいります。

応募状況において、HTML形式をはじめとする紙以外の形式が約3割増加したという結果は、マニュアルのあり方が新たなステージに入ったことを物語っています。この流れを受け、2026年は従来の「製造業で紙マニュアルが中心」というイメージをさらに打破し、ソフトウェアベンダーやHTMLでマニュアルを作成する企業にもJMAの応募を広げていくことを、大きな目標として掲げたいと考えています。

実行委員が自ら受賞作の魅力語る「説明ガイドツアー」は、参加者との対話を通じて私たち自身も多くの気づきを得られる、大変実りある活動となりました。今後もTCシンポジウム活動と連携しながら、マニュアル制作の楽しさや奥深さをより身近に感じていただけるような情報発信を続けていきたいと考えています。

2025年に得た新しい手応えを力に変えて、実行委員会のチームワークをさらに高め、皆様に「応募してよかった」と思ってもらえるような、より質の高いアワードを目指してまいります。

最後になりますが、変化の激しい一年を共に走り抜け、温かいご指導とご協力をいただいた実行委員会メンバーの皆様、心からの感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

2025年のジャパンマニュアルアワード概要

■ 各部門の今年の傾向

●一般部門

昨年は応募31点で優秀賞3点、奨励賞7点であったが、今年は応募42点、優秀賞6点、特別賞1点、学生賞1点、奨励賞2点という結果になった。応募点数は11点増加、優秀賞が大幅に増え、奨励賞が半減する結果となった。

今年の応募作品の全体的な傾向として、ユーザーの利便性を追求したコンテンツの活用が目立った。中でもMOYノミネート作品のうち、洗濯乾燥機（パナソニック株式会社）とバスルーム（パナソニックハウジングソリューションズ株式会社）の2作品は、図解や動画、アニメーションを効果的に活用し、複雑な内容を視覚的にわかりやすく伝える工夫が顕著に見られる点で評価された。ルーターとシンセサイザーの2作品（ヤマハ株式会社）は、製品の概念を丁寧に解説することによりユーザーの理解を深める姿勢で、従来から指摘されてきた課題を克服している点が評価された。一方で応募作全般において、安全情報の過剰な記述や対象ユーザーに合わない表現など、改善の余地がある点も多く見受けられた。

【過剰例】

- ・目次の前後にまとめすぎている。
- ・安全に関する情報がありすぎる。
- ・操作説明に追加しすぎている。

また、今年は評価項目に「動機付け（役に立つ、興味深い、ためになる）」という新しい要素を加え、製品マニュアルの評価をより多角的に行った。これは、単に製品の使い方を説明するだけでなく、ユーザーが製品を使い続けたい、さらに深く知りたいと思えるような意欲を喚起するマニュアルを評価するための重要な視点である。来年以降もこの「動機付け」と

いう観点もあわせて評価を進めていくが、ユーザーを心から満足させ、より魅力的な製品マニュアルの応募を期待したい。

この他、今年はWeb上で検索して症状を選択することで、用品の使い方をサポートするサービス（株式会社ホンダアクセス）があり、特別賞を受賞した。JIS X 0153:2024の「利用者用情報」の範囲で、これからの方向性が見える好例として注目される。

●産業部門

応募点数は11点で、昨年より増加したが、じつは産業機器のマニュアルといえるのは少なく、比較的類似性のある業務用製品のマニュアルを産業部門として審査した結果の応募点数である。受賞したのも業務用製品のマニュアルであった。

産業機器のマニュアルが少なかったのは寂しい結果であったが、例年にない製品のマニュアルを審査すると、新たな発見や喜びがある。優秀賞を受賞し、マニュアルオブザイヤーにもノミネートされた、ヤマハ株式会社「10ギガアクセスVPNルーターRTX3510」のHTMLマニュアルは、まさにその一例である。

見出しと目次が連動する動きには目を見張るものがあり、□にチェックマークを入れられるようになっていくことは、チェックリストとして使えるお得感がある。

来年は産業機器からも新たな発見や喜びをもたらすマニュアルが現れることを期待したい。

応募状況

■ 応募点数（総数53点）

一般部門	42点
産業部門	11点

■ 応募会社（五十音順）

株式会社アイシン

いすゞインテック株式会社

SFA Japan株式会社

カシオ計算機株式会社

真生印刷株式会社

TOTO株式会社

トリセツのトリセツ株式会社

株式会社バッファロー

パナソニック株式会社

パナソニックハウジングソリューションズ株式会社

パナソニック株式会社 暮らしアプライアンス社

日立グローバルライフソリューションズ株式会社

株式会社 ホンダアクセス

株式会社ミットヨ

ヤマハ株式会社

1次審査

■ 審査基準

使用情報の国際規格IEC/IEEE 82079-1 Edition2.0に対応した評価基準で審査を行いました。一般的なチェックリストは使用せず、ジャパンマニュアルアワード委員会が独自に作成した評価表と呼ばれるシートを使用して採点しています。応募分野により、またマニュアルの性質により、チェックリストでは当てはまる項目と当てはまらない項目の違いが顕著になる場合があります。このような場合、相対的な評価が難しくなる場合があります。このような場合、チェックリストを使うと評価結果にばらつきが出て、公正な評価が難しくなる恐れがあるため、より柔軟性のある評価表を使用しています。

■ 審査方法

審査委員はジャパンマニュアルアワード委員とジャパンマニュアルアワード実行委員です。1冊のマニュアルにつき3～5名の審査委員が審査しました。なお一部のマニュアルについては出張審査を行いました。

■ 講習会

ジャパンマニュアルアワード実行委員になった人には、評価基準と評価表の使いかたを学ぶために8時間の講習を受けていただきました。

講師：ジャパンマニュアルアワード委員

遠藤 幸夫

清水 義孝

徳田 直樹

瀬戸 大地

2次審査

■ 審査方法

一般部門(2日間)および産業部門(1日)それぞれで、参加可能な実行委員全員が一堂に会して実施。
1次審査における上位作品を中心に、ディスカッション形式で評価を行いました。

学生審査

■ 審査方法

2次審査の受賞候補の中から、一般部門のコンシューマー向け製品のマニュアルを対象として、テクニカルコミュニケーションに関する研究をしている大学生が審査しました。

3次審査

■ 審査方法

2次審査を経て各部門の上位マニュアルを、有識者による選考委員で審査しました。

審査担当者

● ジャパンマニュアルアワード委員(五十音順)

<委員長>

徳田 直樹 一般財団法人 テクニカルコミュニ
ケーター協会 副評議員長

<委員>

遠藤 幸夫 ヤマハ株式会社
清水 義孝 株式会社クレステック
瀬戸 大地 株式会社クレステック
根本 隆志 元キヤノン株式会社

<実行副委員長>

小平 勉 日本電気通信システム株式会社
斉藤 雅人 ヤマハ株式会社

<実行委員>

安積 美香 パナソニックハウジング
ソリューションズ株式会社
石原 恵里 真生印刷株式会社
上野 由紀子 DMG森精機株式会社
内田 駿 株式会社クレステック
岡元 三香子 アベイズム株式会社
上條 とくり YAMAGATA株式会社
蒲原 久美子 HOTARU株式会社
上月 真由美 パナソニック株式会社
高橋 美和 株式会社富士通ラーニングメディア
都築 行博 岡村印刷工業株式会社

● ジャパンマニュアルアワード2025 実行委員 (五十音順)

<実行委員長>

工藤 亜望 TOTO株式会社

竹村 貴子 マツダエース株式会社
 田島 咲子 アベイズム株式会社
 濱 愛 株式会社PFU
 林 美里 DMG森精機株式会社
 東野 誠 トリセツのトリセツ株式会社
 樋口 史代 パナソニック株式会社
 道坂 奈緒美 日立グローバルライフ
 ソリューションズ株式会社
 和田 晃治 キヤノン株式会社

<事務局>

山崎 敏正 一般財団法人テクニカル
 コミュニケーター協会
 中原 司郎 一般財団法人テクニカル
 コミュニケーター協会
 井上 彰 一般財団法人テクニカル
 コミュニケーター協会
 上田 優子 一般財団法人テクニカル
 コミュニケーター協会

● **ジャパンマニュアルアワード2025 産業機器
 部門分科会 (五十音順)**

<主査>

久保 達昭 整 (トトノエル)

<実行委員>

相武 絵美 株式会社テクノツリー
 石川 喬之 株式会社 SCREEN クリエイティブ
 コミュニケーションズ
 上野 由紀子 DMG森精機株式会社
 梯 珠美 エスペック株式会社
 河野 剛久 有限会社デジックス・システムズ
 寺田 安夫 元パナソニック株式会社
 橋本 玲子 村田機械株式会社
 林 美里 DMG森精機株式会社
 東野 誠 トリセツのトリセツ株式会社

樋口 歩 有限会社デジックス・システムズ
 水口 実 株式会社情報システムエンジニア
 リング
 宮坂 朋子 株式会社ミットヨ

● **学生審査**

神奈川大学 高野倉研究室参加 9名 (全員
 3年生)
 千葉工業大学 安藤研究室参加 5名 (全員
 3年生)
 常葉大学 安武研究室参加 6名 (全員
 3年生)

● **3次審査選考委員 (五十音順)**

安藤 昌也 千葉工業大学 先進工学部 教授
 大村 宏之 一般社団法人 日本食品機械工業
 会 事業部 部長
 河村 真紀子 主婦連合会 会長
 黒田 園子 公益社団法人 日本消費生活アド
 バイザー・コンサルタント・相談
 員協会 消費生活アドバイザー
 島田 能里子 一般財団法人テクニカルコミュニ
 ケーター協会 評議員
 鈴木 弘彦 独立行政法人 国民生活センター
 総務部 管理室 室長
 徳田 直樹 一般財団法人 テクニカルコミュ
 ニケーター協会 副評議員長
 綿井 雅康 一般財団法人 テクニカルコミュ
 ニケーター協会 会長
 十文字学園女子大学 副学長

表彰式およびマニュアル オブ ザ イヤー選考会(最終審査)

2025年は、各賞の表彰式およびマニュアル オブ ザ イヤー選考会をまとめて、10月のTCシンポジウム京都開催で実施しました。

表彰式では、受賞作品の関係者をはじめ多くの方が出席し、奨励賞、学生賞、特別賞、優秀賞の表彰状と盾が会長および実行委員長から授与されました。さらに、マニュアル オブ ザ イヤーにノミネートされた4作品に対しても、表彰状が会長から授与されました。

マニュアル オブ ザ イヤー選考会では、ノミネートされた4作品の制作担当者によるプレゼンテーションが行われました。プレゼンテーションは1作品10分という限られた時間ながら、各社とも作品のコンセプトや取り組みなどが情熱的に語られ、白熱したものになりました。プレゼンテーションの終了後、選考委員による別室での討議を経てマニュアル オブ ザ イヤーが発表されると、会場は大いに盛り上がりました。マニュアル オブ ザ イヤー受賞会社には表彰状およびトロフィーが授与され、受賞者はスピーチにて喜びを伝えていました。

■ 式次第

●表彰式

1. テクニカルコミュニケーター協会 綿井会長 挨拶
2. 独立行政法人 国民生活センター 総務部 管理室 室長 鈴木弘彦様 挨拶
3. ジャパンマニュアルアワード 2025 工藤実行委員長による経過報告
4. 表彰式：奨励賞、学生賞、特別賞、優秀賞（表彰状・盾の授与）
5. 表彰式：マニュアル オブ ザ イヤー ノミネート賞（表彰状の授与）

●マニュアル オブ ザ イヤー選考会

1. ノミネート作品プレゼンテーション

(1) パナソニック株式会社

ドラム式洗濯乾燥機 施工説明書・施工動画

(2) ヤマハ株式会社

ミュージックシンセサイザー MONTAGE M クイックガイド、オペレーションマニュアル、データリスト

(3) パナソニック ハウジングソリューションズ株式会社

バスルーム ビバス 取扱説明書

ビームシャワーヘッド 取扱説明書

フラットフェイス水栓 取扱説明書

(4) ヤマハ株式会社

10ギガアクセスVPNルーター RTX3510 はじめにお読みください・ユーザーガイド

2. ジャパンマニュアルアワード 2025 評価概要

- ・ジャパンマニュアルアワード委員会清水委員からの報告
- ・別室にて選考委員による選定協議

3. マニュアル オブ ザ イヤー発表および表彰

- (1) テクニカルコミュニケーター協会 綿井会長 挨拶
- (2) ジャパンマニュアルアワード 2025 工藤実行委員長から発表
- (3) テクニカルコミュニケーター協会 綿井会長から表彰状・トロフィーの授与
- (4) マニュアル オブ ザ イヤー受賞会社 挨拶
- (5) テクニカルコミュニケーター協会 綿井会長 講評



ヤマハ株式会社へのMOY表彰状授与の様子



MOY受賞したヤマハ株式会社の記念撮影の様子

審査結果

■ 入賞マニュアル一覧

賞名称		マニュアル名称	応募会社	解説
マニュアル オブ ザ イヤー		ミュージックシンセサイザー MONTAGE M クイックガイド、オペレーションマニュアル、 データリスト	ヤマハ株式会社	14
優秀賞	一般部門			
優秀賞	一般部門	ドラム式洗濯乾燥機 施工説明書・施工動画※	パナソニック株式会社	16
優秀賞	一般部門	バスルーム ビバス 取扱説明書 ビームシャワーヘッド 取扱説明書 フラットフェイス水栓 取扱説明書※	パナソニックハウジング ソリューションズ株式会社	17
優秀賞	産業部門	10 ギガアクセス VPN ルーター RTX3510 はじめにお読みください、ユーザーガイド※	ヤマハ株式会社	18
優秀賞	一般部門	ピュアレスト EX 他 タンク密結形便器 取扱説明書	TOTO 株式会社	19
優秀賞	一般部門	トラップカバー (HP870FR) 施工説明書、 型紙 (内装材兼用)	TOTO 株式会社	20
優秀賞	一般部門	マーチングドラムキャリア MSC9600 MTC9600 MBC9600 取扱説明書	ヤマハ株式会社	21
特別賞	一般部門	Honda 純正カーナビゲーション Gathers (2024年モデル) Smart Search Module 用品使い方サポート	株式会社 ホンダアクセス	22
学生賞	一般部門	Moflin PE-M10 スタートアップガイド Moflin PE-M10 取扱説明書	カシオ計算機株式会社	23

※ マニュアルオブザイヤーノミネート

賞名称		マニュアル名称	応募会社	解説
奨励賞	一般部門	FGDP-50 FGDP-30 スタートアップガイド FGDP-50 ユーザーガイド	ヤマハ株式会社	24
奨励賞	一般部門	コーヒーマーカー NC-A58 取扱説明書	パナソニック株式会社	25
奨励賞	産業部門	ProVisionaire Plan ユーザーガイド	ヤマハ株式会社	26

■ 応募数及び受賞数

ジャパンマニュアルアワード 2025 は、応募が 53 作品。

部門	応募数	受賞数			
		優秀賞	特別賞	学生賞	奨励賞
一般	42	6	1	1	2
産業	11	1	0	0	1
合計	53	7	1	1	3

入賞マニュアル解説

■ マニュアル オブ ザ イヤー ノミネート作品 マニュアル オブ ザ イヤー 受賞 優秀賞受賞

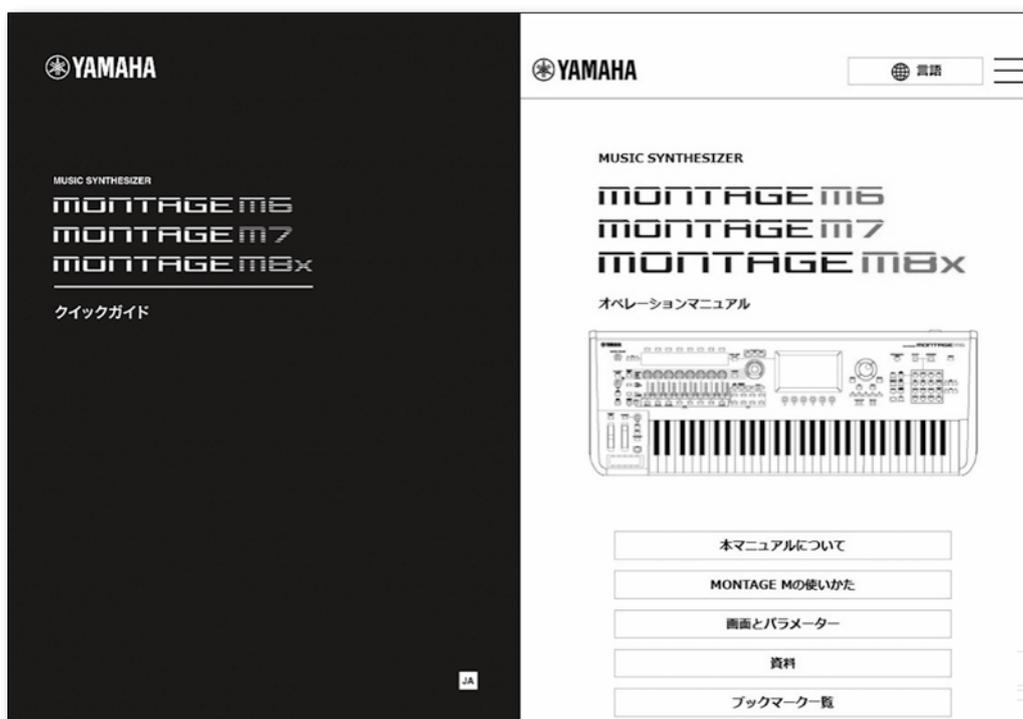
一般部門

ミュージックシンセサイザー MONTAGE M クイックガイド

オペレーションマニュアル

データリスト

ヤマハ株式会社



● 選考委員のコメント

本マニュアルの対象製品は、プロの演奏家をメインユーザーとしたハイエンドタイプのミュージックシンセサイザーである。シンセサイザーに関する専門的知識も豊富で、プロとして高いレベルでの演奏パフォーマンスを要求されるプレイヤーがメインである。こうしたターゲットユーザーに対して、マニュアル利用に関する「時短」を

図るために、個別具体的な操作説明よりも、製品の特長や仕組みの理解に重きおいた点、大まかな操作概要を説明した後に詳細な説明を示すという方向性を取り入れた点が、このマニュアルの特長だといえる。特に、詳細な説明を提示順序に関しては、ユーザーからの聞き取りをもとにユースケースの設定し、ユースケースに対応した最も適切な

順序を丁寧に検討するという地道な作業に基づいた改善が施されている。シンセサイザーを思い通りに操作・演奏してもらうために、マニュアルが果たすべき役割を見直し、丁寧に取り組んだ成果が実現されている。最終審査におけるプレゼンテーションでは、こうした改善・工夫の成果が、Webマニュアルへのアクセス分析によって検証され、製品の特長や仕組みに関する記載へのアクセス数が想定通りに多くなっていることが示された点も高く評価できる。

審査対象となったマニュアル（クイックガイドやオペレーションマニュアル）の記載内容は、2次審査までの結果からも高いレベルであることが示されている。これらに加えて、最終審査でのプレゼンテーションを通して、ユーザーのペルソナを具体化し、達成すべき目標を明確にした上で、改善・工夫に取り組んだ点が、2025年における最も優れたマニュアルとして評価されるポイントになったといえる。

● 2次審査委員の解説（シンポジウム展示パネルから転載）

製品は最上位モデルのシンセサイザーである。この製品の説明の難しさは、鍵盤を備えていながら鍵盤楽器の延長では説明できないところにある。音作りにおける鍵盤の役割は相対的に小さくなり、その役割は電子回路に委ねることになる。シンセサイザーの音作りは主に音源となる電子回路とそれを変調する電子回路で構成される。その組み合わせと順番をコントロールすることで無数の音色を生み出す機器なのである。

『MONTAGE M オペレーションマニュアル』（HTML版、PDF版）では、「MONTAGE Mの使い方」-「MONTAGE Mのしくみ」において、音を

作る仕組みの概念化が上手くできている。「本機のブロック構成とデータの流れ」「音源部」でどのような音が作れるのかイメージできるだろう。

それを演奏・コントロールするという意味では、「画面とパラメーター」にまとまっている。これが概念情報と指示情報となり（因みに参照情報は『MONTAGE M データリスト』にまとめられている）、音を作り込むこの製品のユーザーに対して合理的な説明になっている。

■ マニュアルオブザイヤー ノミネート作品

優秀賞受賞

一般部門

ドラム式洗濯乾燥機 施工説明書・施工動画

パナソニック株式会社

Panasonic
施工説明書
ドラム式電気洗濯乾燥機
(日本国内・家庭用)

品番 **LXシリーズ**
NA-LX129DL/R NA-LX127DL/R
NA-LX125DL/R NA-LX113DL
(L: ドア左開き、R: ドア右開き)

SDシリーズ
NA-SD10UAL NA-SD10HAL
(ドア左開き)

動画で説明 

■ 運搬は必ず2人で

製品運搬時は正しい手掛け部を持つ
(パネルの変形防止)

■ ドアの中央を強く押さない
(変形防止)


※本書で使用しているイラストはイメージです。・QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

もくじ

必ずお読みください	2
付属品	3
1 輸送用固定ボルトの取り外し	4
2 据え付け場所と周辺寸法	5
3 据え付け前の確認と準備 (別売品)	7
4 排水部の接続	16
5 給水部の接続	23
6 脚の高さ調整	25
7 アース・電源の接続	26
8 点検	27
9 試運転	28

本書内の参照ページ・QRコードをクリック(タッチ)すると、該当ページが表示されます。
・QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

衣類などの洗濯・乾燥を行なうドラム式電気洗濯乾燥機の施工説明書である。施工業者が製品を購入されたお客様のお宅で、給排水ホースからの水漏れやエラーが発生することなく製品を設置することを目的としている。

評価対象は施工説明書(Web)、施工動画の2点である。施工説明書(Web)は施工のしかた全般が記載されており、施工動画は設置の流れに沿って作業内容の確認ができる。

本資料は、施工業者向けでありながら初心者にも

配慮された構成で、現場の多様性に対応した内容となっている。目次は情報の所在と作業の流れを明確に示し、動画は荷扱いや試運転時のポイントを視覚的に理解できるよう工夫されている。QRコードはクリックで直接アクセスできるので利便性が高く、サムネイルも操作しやすい設計である。

プロではない施工者が増える現代において、丁寧でわかりやすい説明は非常に有効であり、実用性とユーザー視点を兼ね備えた優れた資料である。

■ マニュアルオブザイヤー ノミネート作品

優秀賞受賞

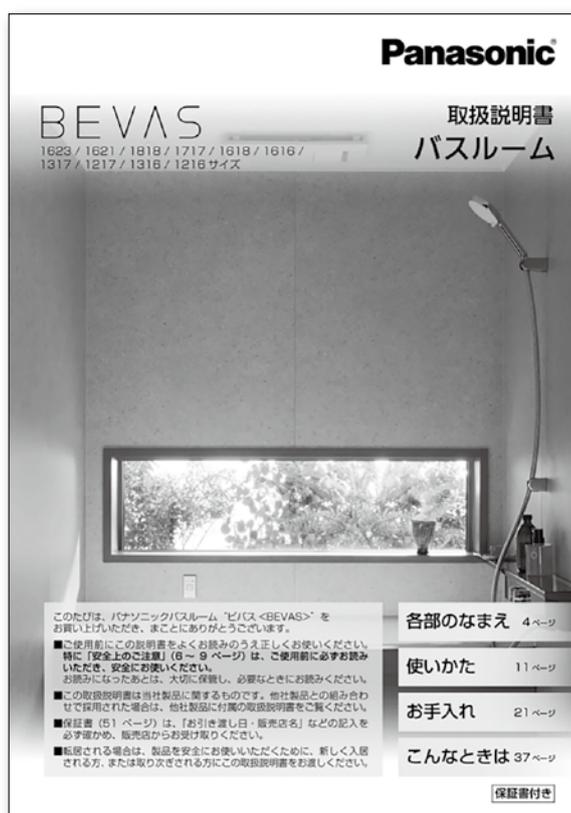
一般部門

バスルーム ビバス 取扱説明書

ビームシャワーヘッド 取扱説明書

フラットフェイス水栓 取扱説明書

パナソニックハウジングソリューションズ株式会社



全体的に丁寧に作られていて、随所に工夫が見られるマニュアルである。

例えば、購入後、最初に知っておくと有益な情報が、p.2-3に凝縮されている（カビを防ぐ、早めのお手入れ、汚れやすい場所）。また、「お手入れカレンダー」には、お手入れの頻度や方法、参照ページが一覧表で掲載され、ユーザーが気になる点がカバーされている。

使い方やお手入れの説明では、イラストがふんだんに使われ、マニュアル単独ではカバーできな

い内容は動画へのリンクが掲載されている。動画は実写とアニメーションが絶妙なバランスで組み合わせられており、見やすい内容になっている。

加えて、「安全上のご注意」の分類が明確で、使用シーンに応じた注意喚起が整理されて掲載されていることが評価された。

工夫された点で目新しさはないが、取扱説明書としての重要なポイントを押さえ、長年にわたる改善を積み重ねたことで、わかりやすいマニュアルに仕上げられている。

■ マニュアルオブザイヤー ノミネート作品

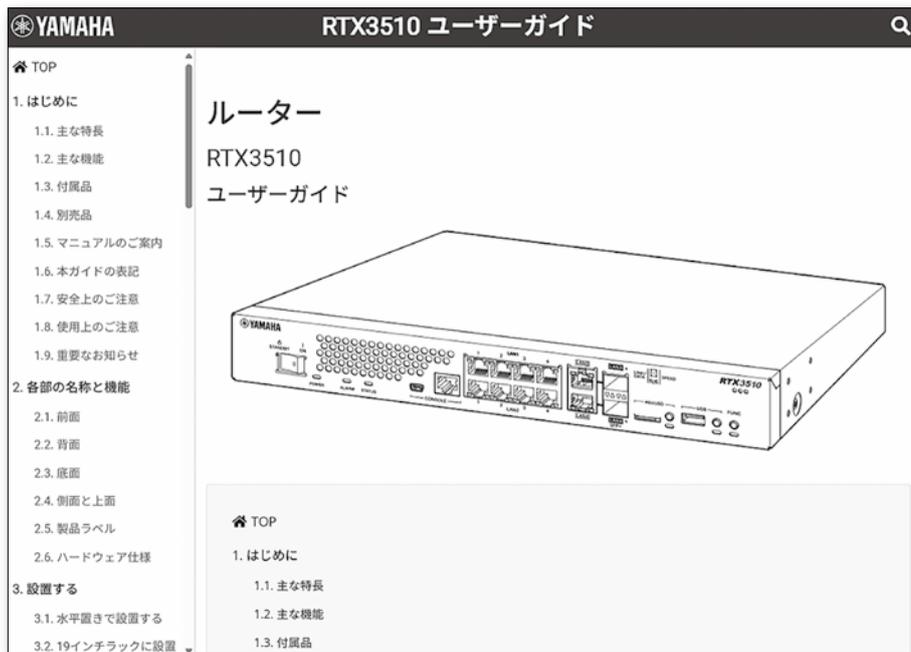
優秀賞受賞

産業部門

10ギガアクセスVPNルーター RTX3510

はじめにお読みください、ユーザーガイド

ヤマハ株式会社



製品を取り扱うのは大規模なネットワークを構築するための知識やスキルを有しているエンジニアだが、「ユーザーガイド」は参考資料として使用する上級者と、学習書として使用する初級者の両方を対象としている。

相反するスキルレベルのエンジニアに対し、どちらにも対応できている点が評価のポイントとなった。

特に高く評価された点は、各機能説明の最初に配置されている概念図である。初級者はこれから学習する内容が事前にイメージでき、上級者は求めている情報が判別できる。同じイラストで初級

者と上級者どちらにもアプローチできている。(参照：9.2.1～9.2.3他多数)

また、章の最初に各項目の概要が書かれた一覧表があり、概念図と同様に内容が事前に把握できる。

他にも、閲覧ページの見出しがサイドバーの目次で強調表示される、□に✓マークが入れられチェックリストとして使用できる(参照：1.3、3.2.1)、上へボタンで一覧表に戻りやすいなど、Webマニュアルの機能が有効活用されており、使いやすくなるよう細かな配慮がされていた。

優秀賞受賞

一般部門

ピュアレストEX他

タンク密結形便器

取扱説明書

TOTO株式会社



TOTO「タンク密結形便器 ピュアレストEX」の取扱説明書は、安全情報と使用情報の整理に優れ、利用者にとって理解しやすい構成となっている。

警告や注意の区別はアイコンによって直感的に示され、視覚的な理解を助けるとともに安全意識の向上に寄与している。

操作手順ではイラストや図解が簡潔で的確に配置され、不要な要素が削ぎ落とされているため、情報の受け取りやすさが高い。

洗浄操作に関しては塗りつぶしや縁取りにより「大」と「小」の違いが明確に示され、誤操作防止に

つながっている。さらに、「〇〇の場合」といった状況別の記載は背景色や見出しの工夫で整理され、情報の構造が一目で理解できる点も評価できる。

レイアウトや余白の取り方など、細部に至るまで視認性・可読性への配慮が行き届いており、利用者が安心して参照できるマニュアルに仕上がっている。

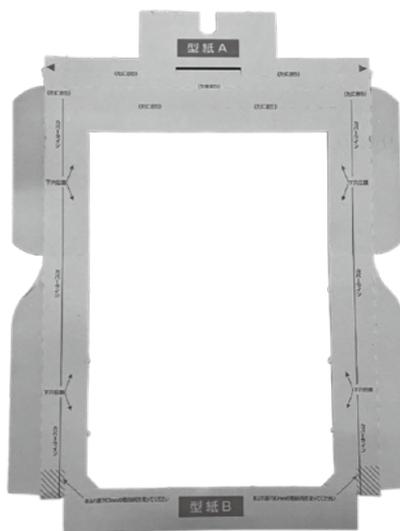
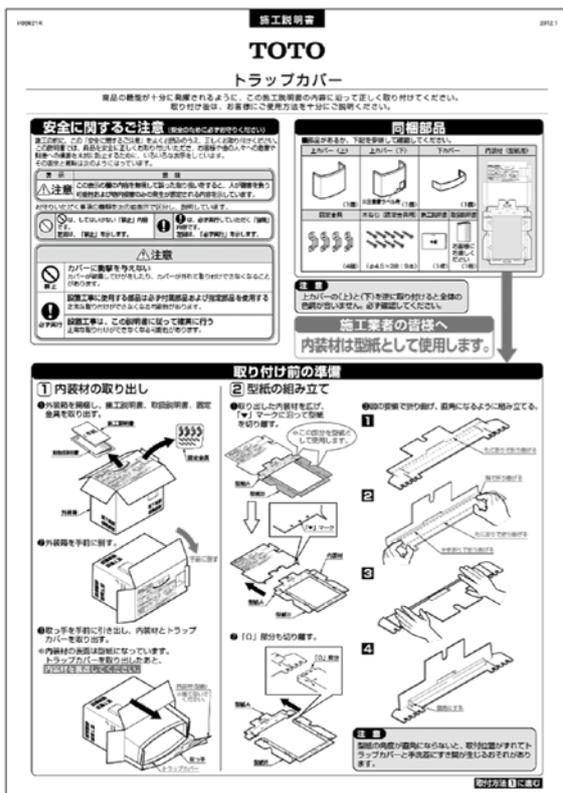
一方で、操作表現や記号の使い方にわずかな不統一が見られる点や、動画参照の方法にさらなる工夫の余地がある点は、今後の改善に期待したい。

優秀賞受賞

一般部門

トラップカバー（HP870FR） 施工説明書、型紙（内装材兼用）

TOTO株式会社



製品同梱のシートである施工説明書、段ボールで作られた型紙（内装材兼用）が審査対象である。

以下2点が高く評価された。

1. 型紙の表記がわかりやすく、施工説明書との対応関係が明確である。

例えば、いろいろなマークが効果的に使われており、視覚的にわかりやすく両者の対応を示している。

2. 二色使いでポイントが強調されており、わかりやすい。

例えば、作業の説明（たにおりで折り曲げる、や

まおりで折り曲げる、切り取り箇所といった文言や図など）が、赤色で適度に強調されていてわかりやすい。

現場で紙を参照することを考えると、文字が小さくて読みにくいところもあるが二色使いで必要な箇所は強調されているので、大きな問題はないと思われる。一部、「すき間があった場合」など、説明が足りない箇所も見受けられたが、専門の施工業者であれば問題ないであろう。

優秀賞受賞

一般部門

マーチングドラムキャリア MSC9600 MTC9600 MBC9600 取扱説明書

ヤマハ株式会社



本マニュアルは、冒頭に概念説明を置き、写真やイラストを効果的に用いることで、複雑な調整作業も直感的に把握できるよう工夫されている。

これにより、製品操作への不安を軽減している。

特にP.8「腹当ての調節」、P.16「楽器の角度を調節する」は、人体に装着した状態で説明しており、ユーザーは、安全かつ自分に合った装着方法を理解しやすい。

また、章立てが「製品構成と各部の名称」「楽器の取り付け準備」「各楽器の取り付け方」と整理され、モデルごとの情報も明確にセクション分けさ

れているため、必要な情報を迷わず探し出せる。

表紙イラストは迫力あるアングルで制作者の想いが伝わり、ホワイトスペースの使い方も適切で、専門的な内容でありながら読みやすさを確保している。

総じて、ユーザーの安全性と快適性に寄り添ったマニュアルである。

受賞

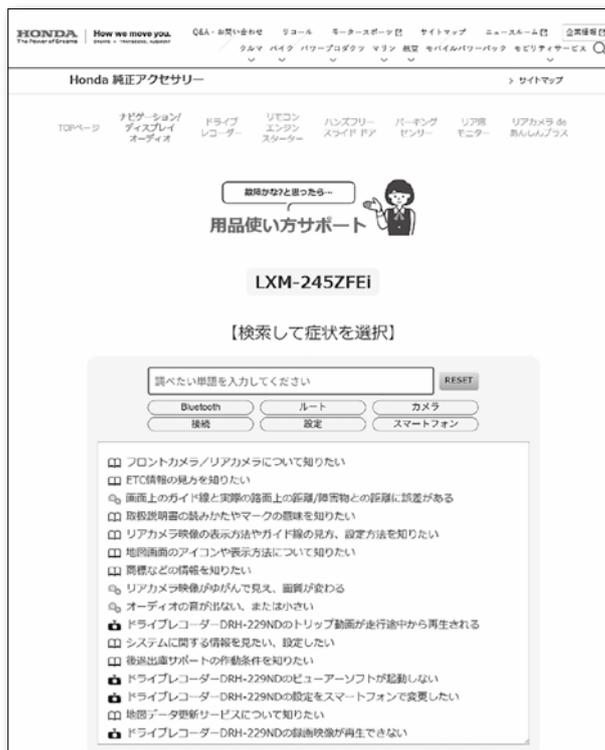
●特別賞(利用者用情報が伝わるで賞)

一般部門

Honda純正カーナビゲーション Gathers (2024年モデル) Smart Search Module

用品使い方サポート

株式会社 ホンダアクセス



取扱説明書のFAQ検索では、目的の回答に到達できず何度もサイトを巡回したり、振り出しに戻ることもある。

今回の審査は、カーナビマニュアル自体は評価対象外、検索システムとオプション製品のマニュアルを評価対象とした。

JIS X 0153:2024の「利用者用情報」の範囲で、これからの方向性が見える好例として評価。

評価ポイントは下記。

紙面のQRコード、Webのキーワード検索、車検証のQRといった複数の視点から同一マニュアル内

で検索が同じ結果で完結したり、短い手数で目的情報に到達できる。

回答文を、問合せ内容から人力とBIツール、生成AIを組み合わせで作成されたと聞いている。生成AI任せでなく人力と組み合わせたことで、動線が少なくユーザーに有益な検索結果を提供。モジュール化により検索の対象範囲が製品内に絞り込まれ、サーバをたらい回しせずスムーズな検索ができていた。

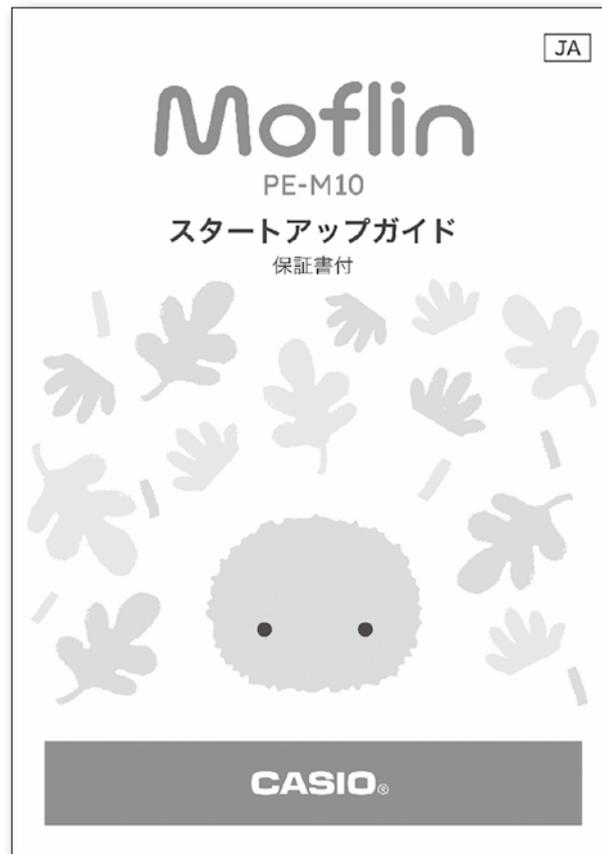
●学生賞

一般部門

Moflin PE-M10 スタートアップガイド

Moflin PE-M10 取扱説明書

カシオ計算機株式会社



紙のスタートアップガイドの色合い、デザイン、およびイラストがWeb版取扱説明書ともそろっており、マニュアルに対する動機付けができています。取扱説明書に記載されている文章表現が製品との整合性が取れている点も評価された。例えば、「修理」を「入院」、「廃棄」を「お別れ」と表現している。よって、Moflinの世界観に没入できる取扱説明書になっていると、学生からの評価を得た。

さらに、Web版取扱説明書のメニュー一覧は、メニューの名称だけでなく、リード文も記載されているため、知りたい情報をユーザーが選択しやすい

工夫がされている。

一方、製品のターゲットユーザーが、未就学児・Z世代・OL・主婦・シニア層と幅広いため、スタートアップガイドの文字の大きさが小さくて読みにくい点は改善を期待する。また、安全面についての配慮がもう少し必要である。例えば、手のひらサイズの製品を未就学児が口に入れてしまうことへの配慮である。また、学生目線の意見として、じゃばら形式のスタートアップガイドの読み方が議論となった。

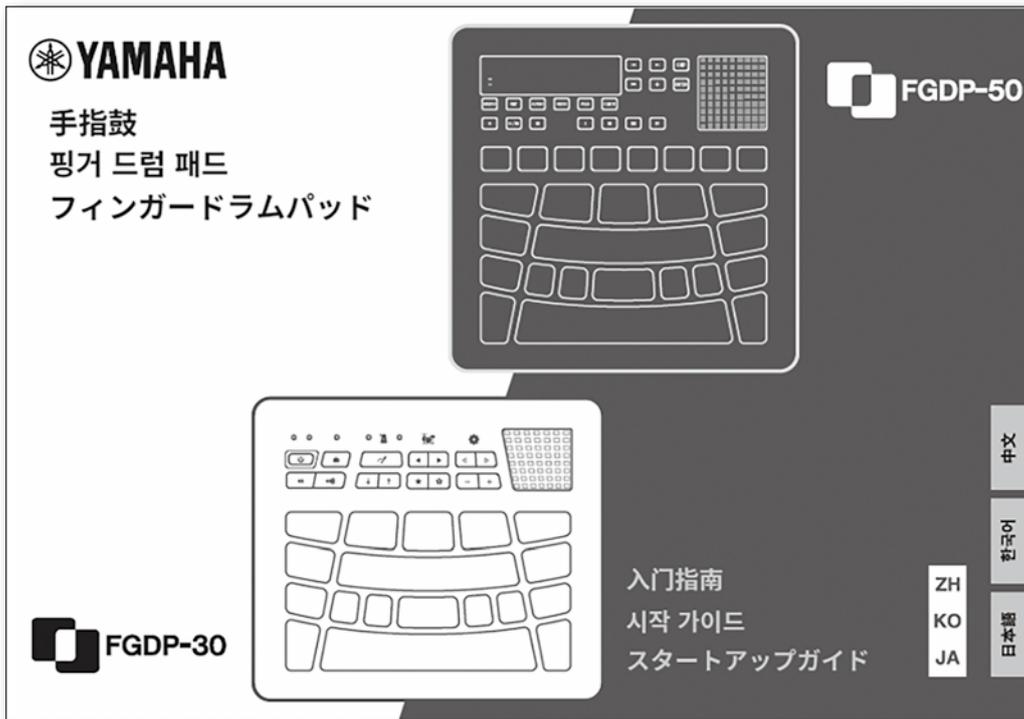
●奨励賞

一般部門

FGDP-50 FGDP-30 スタートアップガイド

FGDP-50 ユーザーガイド

ヤマハ株式会社



フィンガードラムパッドは、指で演奏するコンパクトな電子ドラムであり、比較的安価かつ扱いやすいため、初心者、アナログドラム経験者、プロのドラマー、作曲家、クラブDJなど幅広いユーザー層に向けた製品である。新規性が高く、初めて触れるユーザーはアナログとの違いに戸惑うこともある。

紙媒体の「スタートアップガイド」は、アナログドラムとの関連性をイラストと簡潔な言葉で説明しており、理解を助ける内容であった。一方、FGDP-50とFGDP-30の仕様については、2機種を併記した構成となっているため、購入後に自分のモ

デルの情報を探す際、必要な説明が見つげにくい印象を受けた。

Web HTMLの「ユーザーガイド」は用語検索機能が優れているが、すべての情報が網羅されているとされながら、スタートアップガイドにしかない内容もあり、参照先に迷う可能性がある。専門用語の解説は、より平易な表現が望まれる。

●奨励賞

一般部門

コーヒーメーカー NC-A58 取扱説明書

パナソニック株式会社



本取扱説明書は、イラストを多用してわかりやすく説明されており、P8の「準備する」では、豆と粉は入れる場所が違うことを枠線付きで注意喚起しているなど、お客様がつまずきやすいところも、しっかりフォローされている。

特に評価されたのは、P10～P11の「おいしく淹れるコツ」である。

好みのコーヒーに合わせたお勧めの焙煎度や、豆の量の目安などが記載されており、おいしい淹れ方を伝えたいという熱量が感じられた。

一方で、P2～P3の「本製品のしくみ」は、製品

の構造についてももう少しわかりやすい説明や表現を期待したい。

また、「コーヒーを豆から挽いて飲みたい人」がメインターゲットと思われるが、ターゲットに照準を合わせた優先順位がつけられていない印象がある。

使い始める前のお手入れ手順も、コーヒーを淹れる手順の後に記載されているため見落とししやすい。そのため「準備する」の冒頭で、お手入れの必要性がもう少し大きく表示されると気づきやすい。

●奨励賞

産業部門

ProVisionaire Plan ユーザーガイド

ヤマハ株式会社



製品自体が操作をすることで次の手順に誘導される仕組みであり、想定の対象者であれば説明書を読まなくても扱うことができる。

その上で、補助的に見るユーザーガイドとして有効な形であることを評価した。様々な機能の説明が簡潔に集約され、レイアウトや色分けにも工夫が見られた。またフロー図が各操作説明の最初に示され、全体工程の中での位置を把握しやすくしていた。

機能の紹介以外に、機器プレゼンのような活用場面における使用方法の提案などがあれば、よりわかりやすく広がりのあるマニュアルになることも

期待される。

一方で、製品からユーザーガイドへの直接の導線がなく、ダウンロードサイトからもアクセスしづらいことが課題として挙げられた。

加えて、実際の操作手順では連続して行えない「新規作成」と「保存」の説明が並んでいる、画面説明の番号が操作手順とは別で振られている、目次にある「こんなときには」が本文にないなど、整合性に欠ける部分があり“手順書として読みやすいか”は意見が分かれるところとなった。

選考委員コメント

安藤 昌也 千葉工業大学 先進工学部 教授

毎年、マニュアル オブ ザ イヤーの審査を通じて、新たな工夫が凝らされた作品に出会えることは、大きな刺激となっています。近年は動画を活用した事例が増え、より効果的な情報伝達を目指した取り組みが目立つようになってきました。今年もその傾向は続いています。従来の「取扱説明書」という枠を超え、「ユーザー支援ツール」と呼ぶべき作品も、三次審査の候補に挙げられるようになってきています。

例えば、TOTO株式会社の「トップカバー (HP870FR)」型紙 (内装材兼用) は、カーテンの一部を切り取り、手洗器の取り付け位置を示すガイドとして活用するものです。施工説明書と併用されるこの型紙は、作業者の動作をより円滑に、かつ正確に導くための工夫といえるでしょう。型紙単体では「マニュアル」と呼ぶことは難しいかもしれませんが、

ユーザーが迷わず正確に作業できるよう支援するという点で、取扱説明書の本質的な役割を改めて示しています。そこには、「より負担なく、確実に実行してほしい」という制作担当者の明確な“願い”が感じられます。

生成AIの発達は、取扱説明書に関わる業務にも少なからず影響を与えていくと考えられます。単に「説明する」こと自体は、今後ますますAIが担う領域になるでしょう。しかし、ユーザーの状況や行動を深く想像し、「ユーザーには、より良い製品利用体験をしてほしい」と“願う”ことは、人間にしかできない営みです。その思いから生み出される創意工夫こそが、これからの取扱説明書やユーザー支援のあり方において、より一層重要になっていくのではないのでしょうか。

3次審査に残った作品は高い完成度を有しており、印象深いものでした。一方で、過去に高い評価を受けた工夫や手法が、必ずしも全ての応募作品に取り入れられているわけではない点を少々意外に感じました。4色刷り、電子化そして動画を添えた手法はコストや労力を要するため、導入のハードルが高いことは承知しています。しかし、紙媒体における構成やデザインの工夫などは、比較的導入しやすいと思います。しかしそうであっても時には注意が必要になることもあります。

その一例は「警告表示」に用いられるシグナルワードの使用法です。

「警告」というシグナルワードは、ISO 3864-2及びIEC 82079-1において、「死亡または重傷を招くおそれが高い」と定義されています。すなわち危害の

「ひどさ」と「発生の可能性」に基づくリスクのレベルを表します。

多くのマニュアルが記述するシグナルワードの定義は、規格に近い内容でした。しかし、実際に「警告」とされているリスク内容を見ると、到底「死亡または重傷」を想定した「ひどさ」とは言い難いものも多く見受けられました。なお、ISO 13849-1などにおいて「重傷」とは、後遺障害を伴うレベルの傷害と定義されます。

今回の審査を通じ、このような警告表示に限らず、過去に評価された手法を取り入れる際には、形式の踏襲にとどまらず、その背景にある技術的根拠や考え方を理解し、的確に応用することの重要性を改めて認識しました。

マニュアルアワード3次審査を担当させていただくのはこれで4回目となります。紙とWebをリンクさせる手法など、一通りの目新しさは定着してきた感があります。Webに飛んだ先のメニュー画面の構成やデザインに、もう一工夫できるのではと感じた作品が複数ありました。

パナソニックハウジングソリューションズ(株)のバスルームBEVASは、取扱い方の図示など、シンプルかつ行き届いており、内容・構成、デザイン共に洗練を感じました。

パナソニック(株)のドラム式電気洗濯乾燥機の施工説明書では、「運搬と荷扱い」などの動画が作業者の安全を確保する上でとても分かり易く、効果的だと感じました。作業者がかつてのように経験豊富な“職人”ばかりではないという昨今の事情も関係しているのでしょうか。誰にでもわかりやすく、丁寧に説明されていることに、社会の変化も感じられました。

ヤマハ(株)のミュージックシンセサイザーは、図の中の名称から説明にとべるなど、工夫が感じられました。図が英語表記であるところ、説明は日本語表記のみで対応されており、説明部分で英和両方を書いた方が対応がわかりやすかったのではと感じました。また、若干文章による表現に頼っていると感じ、よりシンプルなマニュアル表現にできる余地もあるのではと感じました。

審査というものはとかく“粗さがし”となってしまうところがありますが、3次審査に上ってきたいずれのマニュアルも、制作者の工夫とご努力の賜物と思います。と同時に、世の中のIT技術の進歩を考えると、まだまだマニュアルの世界に画期的なアイデアを盛り込める可能性は大いにあるのではと考えます。テクニカルコミュニケーションの更なる発展に期待しています。

このたびは、ジャパンマニュアルアワード2025の3次審査をさせていただき、ありがとうございます。今年度もWeb上にマニュアルだけでなく、説明のツールとして動画が使われている製品が増えています。昨年と同様に、一般消費者向けの取扱説明書だけでなく、施工業者向けマニュアル・動画もありました。施工業者に対しても、文字だけでなく、動画で誤解なく伝える説明が求められているのでしょうか。

高評価を得たWebマニュアルは、リンクの貼り

方が適切で検索性がよく、色付けに意味があり、見て安心感がありました。また、高評価を得た紙の取扱説明書は、デザインが示す意図が明確で、説明されている事例が実際にユーザーがトラブルと感じた内容を丁寧に拾い上げて整理されているなど、情報そのものに意味がありました。

今後ますますの各社のみなさまの挑戦や研鑽、それによるマニュアルの進化を心より楽しみにしています。

島田 能里子 一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会 評議員

今年もJMA2025の3次審査にて各社マニュアルを審査させていただきました。3次審査まで残ったマニュアルは、多少改善点はあるものの、いずれも納得のいく評価すべきところがありました。

その中でも今回ノミネートされた作品は、特に以下の点で評価が高かったと思います。

まず、情報整理がきちんとされている。そしてそれを読み手に伝えるのにどのようにしたら理解しやすくなるかの工夫がありました。特にヤマハ株式会社の10ギガアクセスVPNルーター RTX3510のユーザーガイドは、「設置と管理の方法」において、概念

図やそれぞれの説明部分、適度に配色されたイラストの採用にて、その工夫が顕著だったと思いました。同じヤマハ株式会社のミュージックシンセサイザーのオペレーションマニュアルも同様でした。パナソニックハウジングソリューションズ株式会社のパズルルームBEVASの取扱説明書は、まさに王道紙マニュアルとして情報整理、工夫されたデザインレイアウト、完成形に近いものを感じました。

今年は全体的に、奇抜なアイデアというよりも、基本的な情報検索性の高いものが選ばれたと思っています。今後も各社のさらなる研鑽に期待します。

最初に、エントリーいただいた事業者の皆様、運営にご尽力いただいた皆様に御礼申し上げます。

今年も審査対象11作品の半数以上がWeb動画やPDFを用いた電子マニュアルとなっていました。いずれのマニュアルも3次審査まで残るだけにどれも一定のレベルに達していましたが、特色のある作品が少なかったように思います。その中でも、マニュアルをスクロールすると目次が連動して、現在読んでいる項目がわかるよう工夫されている作品があり、紙マニュアルと同じ感覚で読めるのが印象に残りました。来年以降、より進化した電子マニュアルがエントリーされることを期待しています。

紙マニュアルの中では、普通はマニュアルの最後

の方にある「よくあるご質問」が最初のページにある作品がありました。製品によってはマニュアルを熟読するまでもなく使用できるが、トラブル発生時など困った時に初めてマニュアルを必要とするケースも考えられます。そのような製品にはこのような構成も親切であると感じました。

一方、3次審査まで残る事業者の顔ぶれが固定化されつつあるのが気になります。来年は新たな事業者が本アワードにエントリーされることを期待しています。より多くの事業者が切磋琢磨されることで、受賞作の価値がより一層高まるのではないのでしょうか。

徳田 直樹 一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会 副評議員長

今年のMOYノミネート作品は、一般部門が3作品、産業部門が1作品であった。今年の特徴は、一般の人を対象読者とした作品がパナソニックハウジングソリューションズ株式会社のバスルームの取扱説明書1点だけだったことである。残り3作品のうちパナソニック株式会社の応募作はドラム式洗濯乾燥機の施工説明書であった。施工説明書の対象読者は一般人ではなく洗濯機の設置工事を行う人である。工事を行う人は一般人ではなく、ある程度の教育・訓練を受けた人である。ヤマハ株式会社の応募作は、ミュージックシンセサイザーのオペレーションマニュアル等であり、対象読者はプロのミュージシャンか、それに匹敵するレベルのアマチュアミュージシャンである。このような人たちの対象製品に対する知識レベルは相当高いと想定できる。産業部門のヤマハ株式会社の10ギガアクセスVPNルーターの取扱説明書の対象読者は、大規

模なネットワークを構築するための知識やスキルを有しているエンジニアである。3作品ともに対象読者が明確であることが特徴的であった。

MOYの選定時に、最終的に残ったのはミュージックシンセサイザーのオペレーションマニュアルと10ギガアクセスVPNルーターの取扱説明書であった。どちらの概念説明もイラストを多用した非常に丁寧なものであった。対象読者の知識レベルをかなり絞り込むことができたため、概念説明がやりやすかったとは考えられるが、優れた概念説明であることは確かである。

最終的には、ユーザーからの聞き取りをもとにユースケースを設定し、ユースケースに対応した最も適切な説明順序を丁寧に検討したミュージックシンセサイザーのマニュアルがMOYに選定されることとなった。

本年も、3次審査に参加させていただき、優秀賞7点、特別賞1点、奨励賞3点のマニュアルを拝見いたしました。一般部門9点、産業部門2点でしたが、一般部門には施工説明書も含まれており、ここ数年の傾向が継続されていると感じました。

3次審査の主たる目的は、複数のMOY候補作品を選出することです。優秀賞のマニュアルを拝見して、審査員の合議により、候補作品を複数選出することは、慎重ながらも楽しい審査だといえます。それは、各マニュアルと応募書類を拝見しながら、製品の理解に始まり、マニュアル全体の総合的な把握とともに、個別の「良さ」、「工夫」、「特徴」、「挑戦」（時には「課題」）を探し出そうとしているからです。さらに、候補作品を選出する合議のなかで、各委員からの発せられる評価やコメントが、「答え合わせ」であったり「新たな発見」となっていて、これもまた、楽しさの重要な要素になっています。

その一方で、候補とする作品については、3次審査と最終審査を兼任していることもあり、10月の最終選考を念頭において、何が？、どこが？ MOYに相応しいのか、MOYとしてアピールしたり、手本としてほしいのは何か？どこか？を、ずっと自問し、探し続けていることも確かです。マニュアル全体の質が保たれていることは前提としつつ、今年を受賞作のポイントは「ココ！」をどうしても求めてしまいます。

マニュアルの企画製作を担当されている方々が、「わかりやすさ」「つかいやすさ」を追求し、現状の課題を解決することを目指して、日々丁寧に取り組んでいられることは承知しています。それでも、本当に勝手な思いですが、それぞれの取り組みや試行錯誤のなかで、「これってMOYに値するのでは？」って、一瞬でも思っていたくことは不可能でしょうか？ 毎年のコメントの繰り返しになってしまいますが、「イノ

ベーティブ」な側面が、本アワードに求められているように感じています。AIを活用すれば、それなりの水準のマニュアルを製作することは可能になっているとだと存じます。しかし、ヒトが携わることの意義は、思いもよらなかった、または、前例のない「イノベーター」さにあるのではないかと思う次第です。

審査員として、本当に勝手なことを申し上げましたが、実行委員会をはじめ、応募される会員の方々も含めて、本アワードに、そして、MOYに何を求めるのか、さらに、ご検討をいただけるとありがたいと思っています。

音と音楽の未来を支えるヤマハ



MONTAGE M 担当チーム

楽器や音響機器で世界をリードするヤマハ株式会社。この度、ミュージックシンセサイザー『MONTAGE M』のマニュアルが、最高峰の榮譽「マニュアル オブ ザ イヤー」を受賞しました。その受賞に導いた、製品情報デザイングループの制作プロセスと哲学をご紹介します。

■ 50年の歴史を持つヤマハシンセサイザー

1887年の創業以来、ヤマハは楽器、音響機器、ネットワーク機器、自動車内装部品など、音と音楽を軸に幅広い事業を展開してきました。



本社外観(上) と企業ミュージアム「イノベーションロード」内部(下)

このうちシンセサイザーは1974年の第一号機「SY-1」以降、さまざまな技術を取り入れて、歴史的な名器DXシリーズを含む多くの製品を実現してきました。世界中のユーザーに「音の楽しさ」を届けるため、製品とともにその使用情報の発信にも力を入れています。

■ 製品情報デザイングループの役割

製品情報デザイングループは、楽器や音響機器、ネットワーク製品など、ヤマハのほぼ全製品のマニュアル制作を担う専門チームです。以前は「マニュアル制作グループ」という部署名でしたが、2022年からは「製品情報デザイングループ」という名称に変更しました。製品やサービス、ユーザー体験や気持ち、生み出された音や音楽、

その他の成果物すべての積み重ねが**将来の「文化」**であり、**文化という大きな価値を生み出す資産が「製品情報」であるという哲学**に基づき、「私たちは文化を創っている」という合言葉を掲げて活動をしています。製品の使い方のみならず、製品のアイデンティティ、製品を取り巻く文化、製品を使って生まれる価値を、分かりやすく言語化し、「製品情報」としてユーザーに最適な形で届けられるよう、日々邁進しております。

現在、私たちの役割は製品マニュアル制作だけではなく、サービスマニュアルの制作、UIに表示される文字列の校正、翻訳、カタログや社内ウェブサイトなどの文章監修など、多岐にわたります。冊子、オンライン、動画など多様な形式で情報を提供し、国際規格を満たしながら、国内外のユーザーにとって理解しやすいマニュアルを目指しています。制作した全てのマニュアルは、客観的な評価を得るためにジャパンマニュアルアワードへ応募し、次回作への改善につなげています。

■ 最上位モデルのシンセサイザー MONTAGE M 説明書制作

MONTAGE Mは、複雑な音色変化を実現する、現時点での最上位モデルのシンセサイザーです。3つの音源方式を組み合わせたハイブリッド音源やモー

ションコントロールを搭載し、鍵盤演奏とパネル操作で多彩な音変化を生み出せます。また、楽器本体のファームウェアが不定期でバージョンアップされ、新機能が追加されていきます。

しかし、その多機能さと複雑さゆえに、説明書制作は一筋縄ではいきません。



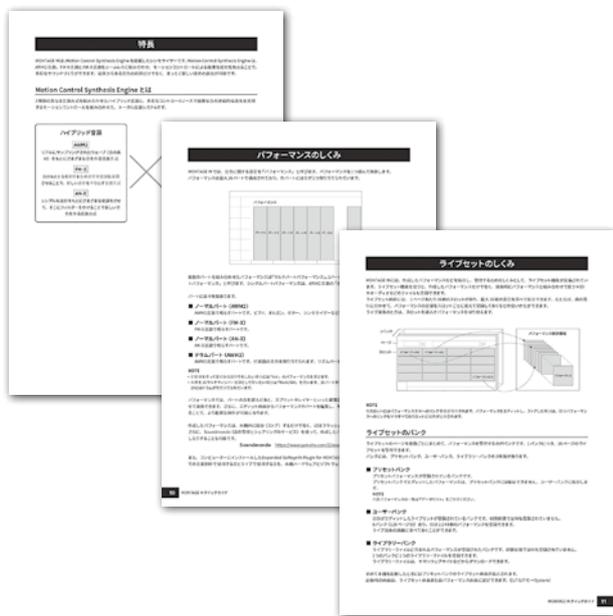
たとえば、パネルに装備されているボタンやノブなども複数を組み合わせて使うことを想定しているため、左上から右下に向かって1つずつ説明してしまうと、かえって使いかたがわからなくなってしまうのです。「機能説明が膨大」「操作が複雑」「最終仕様が変化していく」という課題に対し、それらをどう体系化して伝えるか、担当者はゼロベースで構成を見直しました。



MONTAGE M6を正面から見た状態

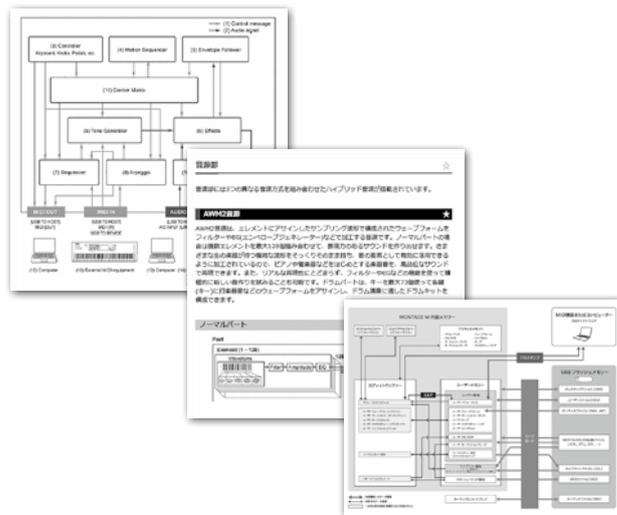
まずは、シンセサイザーのデモンストレーターにインタビューを実施し、説明書がどのようになっていたらよいか、詳しく話を伺いました。加えて、商品企画担当やエンジニアなどの開発関係者と議論して、想定されるユースケースについて洗い出しをしました。また、前モデルや他社製品のマニュアル、過去モデルの日本マニュアルコンテンツやジャパンマニュアルアワード審査結果なども分析して、さらに改善を検討しました。

その次に、すべての記載内容を1つのファイルに書き出してから、順番を並び替えたりして内容を整理していき、目次構成案を作りました。その中で、各部の名称や機能説明よりも前に伝えたい内容を冊子マニュアルの冒頭に置くことで、すべての説明を効率的に伝えられるようになるのではと考えて、「特長」「パフォーマンスのしくみ」「ライブセットのしくみ」(クイックガイド9ページから11ページ)の原案も併せて作りました。



冊子マニュアルは、一度生産が始まってしまうと、途中で改訂して差し替えるのが困難なこともあり、ファームウェアがバージョンアップしてもあまり変わらない、普遍的な内容や、紙で提供する必要

がある内容だけを掲載し、オンラインのマニュアルでは、バージョンアップで変更していく、こまかい機能の使いかたやパラメーターの説明について記載する、という切り分けをしました。「MONTAGE Mのしくみ」(PDF版8ページから17ページ)も、オペレーションマニュアルに置くことで、バージョンアップによる仕様変更が反映できるようにしています。



そのようにして、製品の全体像や概念を先に示すことで、経験豊富なプロユーザーが短時間で理解できるよう工夫をしました。また、手順説明などについても、全体の地図となる大まかな情報を先に置くことで、ドキュメント内のナビゲーション性を高める工夫をしています。こうすることで、ユーザーが必要な部分を少し読めば製品を使えるようになり、あとはこまかく知りたいところだけを検索して調べられるようにしました。

このようにして作った目次構成案をもとに、仕様書や試作品で動作確認をしながら原稿を書き、パラグラフやセンテンスレベルでも情報を最適化してきました。

■ 多様な視点でのレビュー

制作過程では、開発部門だけでなく、お客様コミュニケーションセンターや課内のUX推進チーム

など、社内横断でレビューを実施しました。法規制の観点でも課内のコンプライアンスチームによる第三者チェックを実施し、品質確保を強化しました。最終的には「読める」だけでなく「使える」説明書にするべく、細部にこだわり抜きました。

■ 制作後の調査

オペレーションマニュアルはHTML形式のため、アクセス解析を実施したところ、「MONTAGE Mのしくみ」の閲覧が多く、IEC82079-1における「操作説明(Instructional information)」よりも「概念説明(Conceptual information)」の方がユーザーの関心が高いことが確認できました。

また、お客様コミュニケーションセンターのシンセサイザー・デジタル楽器で相談窓口の担当へのインタビューにより、概念やしくみなどの説明が冒頭にあることでわかりやすくなっていることが確認できました。また、何を操作したら結果がどうなるのかが最後まで書かれていることや、用語の説明などが入っていることで、お客様への回答がしやすいかたちになっているということまで確認することができました。

■ 今後の展望

今回の経験を活かし、さらにわかりやすく検索しやすい説明書を目指します。ユーザーや社内外のエキスパートの声を取り入れながら、新モデルでも進化したマニュアル制作を続けていく予定です。ユーザーがアーティストとしての表現の幅を広げたり、「魅せる」演奏や操作ができたりするようになるためのお手伝いができるような説明書を目指していきたいと思います。

一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会とは

一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会(略称JTCA、英文名称Japan Technical Communicators Association)は、製品・サポート情報の発信に携わる専門家の団体です。

1992年1月に任意団体として設立され、2009年1月に一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会として発足しました。

一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会とは

本財団は、製品・サポート情報の品質改善により各種製品・サービスの利用に際しての安全性向上と誤使用防止、および製品・サービス供給者におけるリスク管理への寄与につとめるとともに国民の健康(ウェルネス)の実現を目指す。更に技術の活用およびそれから得られる体験価値における社会的・地域的格差の解消を図るため、以下の公益目的を達成するための活動を行う。これらの公益活動を通じて、供給者および受益者における情報リテラシーの向上に寄与すると共に、製品・サポート情報を効果的かつ効率的に提供する技術を高め、その技術に携わる多様な人々の相互交流と研鑽を積む事により、社会貢献を果たす。

出典:定款第6条から一部抜粋、2024年

テクニカルコミュニケーションとは

テクニカルコミュニケーションは、技術的知識、経験、立場が異なる人々のコミュニケーションを円滑に行うための技法です。技術情報をつくり、届け、つかっていただくプロセスでもあります。次のような用途と目的で用いられています。

- 複雑な情報を整理したり、文章や説明図として可視化したり、伝達したりすること
- トリセツ(説明書)、マニュアル(手順書)と呼ばれる情報をつくり、利用者に届けること
- 利用者の誤解や間違いを減らすこと
- 利用者の理解を助けたり、行動を促したりすること
- 安全に、効果的に、効率的に製品やサービスを利用していただくこと

テクニカルコミュニケーションは、語彙、要求、評価軸、情報の内容と媒体の設計について、国際規格として標準化されている技法です。情報の作成、提供、管理が法令で義務付けられる場合には、法令要件を満たすために用いられます。

語彙: ISO 24183:2024-01『Technical communication - Vocabulary』

要求と評価軸: IEC/IEEE 82079-1:2019-05『製品の使用情報(使用説明)の作成—第1部:原則及び一般要求事項』

内容と媒体: JIS X 0153:2024(ISO/IEC/IEEE 26514:2022)『システム及びソフトウェア技術—利用者用情報の設計及び作成』

関連法令: 製造物責任法(PL法)、景品表示法など

利用者用情報とは

利用者用情報とは、印刷物としての説明書およびデジタル情報の総称です。利用者が安全に、効果的に、かつ効率的に利用するための概念、手順、参照情報を提供する情報です。利用者用情報は供給者によってつくられ、製品の一部分として利用者に提供されます。印刷された説明書だけでなく、画面上の情報、ソフトウェアの一部として組み込まれている情報を含みます。さらに、画面上の利用者用情報においては、利用者が作成したコンテンツを取り込んだり、利用者が二次加工して利用したりすることも想定します。

利用者用情報は、紙、製品に貼られたラベルや銘板、製品の包装、Webサイト、アプリ、ソフトウェアに組み込まれた状態など、さまざまな媒体や場所で提供されます。カタログに掲載されることもありますが、同じカタログに掲載される価格情報、および購買意欲を促すための販促情報は利用者用情報には含まれません。

利用者用情報(の作成コスト)は製品の一部分として製造原価を構成しますが、価格情報と販促情報(の作成コスト)は製造原価に含めることはできないからです。

なお、JTCAが2018年から製品・サポート情報と呼んできたものは利用者用情報と同じです。2024年の日本産業規格化を契機として、JTCAは利用者用情報に順次統一します。

利用者用情報: JIS X 0153:2024(ISO/IEC/IEEE 26514:2022)『システム及びソフトウェア技術—利用者用情報の設計及び作成』
『製品・サポート情報のつたえかた:コンプライアンスと校閲編』

https://jtca.org/learn-tc/publication/guide_dr_cp/

関連法令: 製造物責任法(PL法)、薬機法、改正個人情報保護法、労働安全衛生法、サイバーセキュリティ基本法、デジタルプラットフォーム取引透明化法、AI法、景品表示法など

一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会の活動

●シンポジウム委員会

- ・夏季は「コミュニケーションデザインシンポジウム2026」としてブレンディッド型(対面とオンライン配信)にて開催
- ・秋季は「テクニカルコミュニケーションシンポジウム2026」として対面にて開催

●アワード委員会

- ・年度最優秀作品の選出と表彰
- ・国際規格(IEC82079-1)に基づく評価

●学術研究産学協同委員会

- ・TC技術発展に向けて調査研究活動を大学などの公的研究機関と連携
- ・テクニカルコミュニケーション・リデザイン学術研究会での研究成果の共有

●海外交流推進委員会

- ・欧州のTC専門組織(ドイツtekomp)と連携
- ・ドイツtcworldとの共催と相互交流
- ・TC国際円卓会議の推進
- ・英国科学技術コミュニケーター協会との交流

●標準規格策定委員会

- ・標準制作工程の検討
- ・使用情報に関する国際規格の策定/改定(IEC82079シリーズ)
- ・カタカナ表記ガイドラインの策定/改定
- ・使用情報のJIS規格策定

●人材育成事業

- ・HCD検®認定TCエンハンス試験
- ・セミナーによる人材育成活動
- ・最新の制作ツールなど、新しい技術動向の解説
- ・大学向けTC専門課程認定制度導入校の拡大

●TC技術検定事業

- ・全国共通の基準でスキルの到達度を判定
3級:テクニカルライティング試験(TW)
2級:使用情報制作実務試験(MP)
2級:使用情報制作ディレクション試験(DR)
- ・2級TCスペシャリスト認定制度

●国際TC検定試験事業

- ・ドイツTC協会(tekomp)認定のTCTrainNetを活用した英語によるTC技術の学習、試験による国際的なTC資格取得の推進

●出版事業

- ・TC技術解説書(兼TC技術検定ガイドブック)の発行
日本語スタイルガイド(第3版)
トリセツのつくりかた:制作実務編
製品・サポート情報のつたえかた
コンプライアンスと校閲編(第1版)
トリセツのつくりかた:品質追求編(新編集版)
- ・使用説明関連の中国国家標準解説書
- ・機関紙Frontierの発行

●受託事業

- ・取扱説明書などの利用者用情報の評価サービス(国内向け、海外市場向け)

詳細はTC協会webサイトで紹介しています。
<https://jtca.org/>



一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会 入会特典

一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会では、魅力ある多数の特典を用意して、皆様のご入会をお待ちしています。

会員数:2025年12月1日現在
法人会員:85社
準法人会員:4社
個人会員:135名

■利用者用情報の収集および活用

1) TC技術検定試験の活用

- ・制作関係職種の人材育成の指針と到達度評価に活用できます。
- ・人事制度上の各種施策への利用ができます。

2) 利用者用情報評価技術の活用

- ・使用情報評価基準で自社使用情報の評価と品質向上につながられます。
- ・アワード実行委員会の評価結果を受け自社のレベルが把握でき、改善目標が明確になります。授賞した作品は、社内への有効なPRにもなります。
- ・使用情報評価審査員講習会に参加でき、評価方法／技術を習得できます。

3) シンポジウムの活用

利用者用情報の今後を見すえ、プログラム内容は毎年更新しています。

- ・パネルディスカッション、トークセッション、ワークショップ、特別セッション、事例研究発表の参加を通じ、TCに関する新しい研究成果や技術、仕組みなどが習得できます。
- ・他社、制作会社など業界動向(表現技術、ツール、UX、DX、標準化、翻訳等)を幅広く把握できます。

4) 調査研究成果の活用

国内にとどまらず、海外の関係団体との協業による活動を強化しています。

- ・利用者用情報の制作技術・技法、人材育成などの調査、分析の成果を制作環境に反映できます。
- ・単独では難しい課題や案件が、複数企業が共同して取り組み、成果につなげることができます。
- ・共同調査研究活動で業界他社や関連官庁、公共機関等にもパイプをひろげることができます。

5) 会員との相互交流の場の活用

協会行事運営への参加(各種実行委員会、ワーキンググループ、実務技術研究会など)により、交流を通じ、人脈を拡大できるとともに、他社の利用者用情報制作の課題や組織体制などの情報収集ができ、自社のレベルを把握できます。

■会員料金と会員割引特典

【年会費】 法人会員:18万円(入会金不要) 準法人会員:9万円(入会金不要)
個人会員:1万円(入会金は1万円)

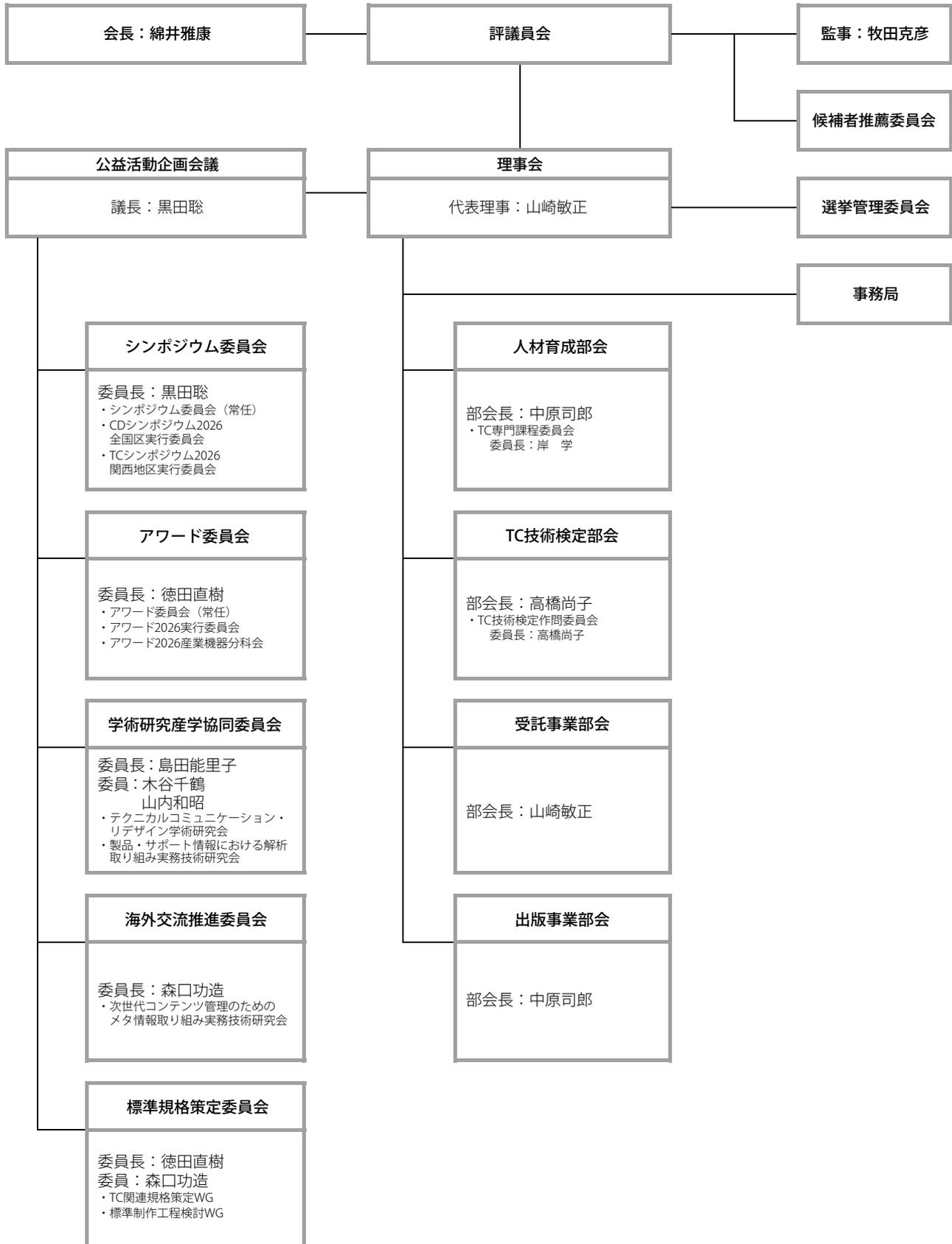
- ・TC技術検定試験の会員受験料金は、非会員価格と比較して30%～50%割安です。
- ・TC実務セミナーの会員受講料は、非会員価格と比較して30%～50%割安です。
- ・JTCAシンポジウムの会員参加料金は、非会員価格と比較して30%～50%割安です。

■法人会員にはさらに大きな特典

- ・法人会員の場合は入会法人社員のすべての参加者・受験者に会員価格が適用(準法人会員は限定人数分のみで個人会員は本人1名のみ)
- ・JTCAシンポジウムにおける商品発表および商品展示、プログラムへの広告掲載料金が割安
- ・機関誌『Frontier』への広告掲載料金が割安
- ・取扱説明書等の利用者用情報の個別評価価格が割安

一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会

組織体制:2025年12月10日現在



Frontier (フロンティア) 第20号 2026年2月発行

発行：一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-34-2 第一後藤ビル 101号室

Tel.03-3368-4607 Fax.03-3368-5087

<https://jtca.org/>

発行人：綿井 雅康

編集責任者：山崎 敏正

企画／編集：TC協会出版部会

表紙・本文デザイン：菊池美範（株式会社エイアール）／吉光さおり（Kamigraph Design）

制作：株式会社パセージ

©Japan Technical Communicators Association 2026

JICA